

年 表

創 設 以 前

- 昭和22年 2 月 文部省科学教育局人文科学研究課，近世以降の古文書・古記録の収集に着手
- 24 3 「国立史料館設置に関する請願」国会で採択
- 10 国が三井文庫の建物を購入
- 26 1 国が三井文庫の敷地を購入
- 5 文部省大学学術局学術課に史料館を設置
- 37 5 収蔵庫(現北館)新築，日本民族学協会より民族学博物館所蔵資料の寄贈を受ける
- 41 12 15 日本学術会議，国語・国文学研究資料センター(仮称)の設立を政府に勧告
- 42 5 国語・国文学研究資料センター(仮称)設立推進連絡協議会(以下「設立推進連絡協議会」と略称)発足，以後ほぼ月1回会合
- 6 文部省大学学術局情報図書館課に史料館を所管換
- 44 3 設立推進連絡協議会，国語・国文学研究資料センター(以下「資料センター」と略称)の設立を早急に実現するよう，文書をもって各方面に支援を要請(45年8月，同10月にも同趣旨の文書を作成・配布)
- 45 6 これまでに設立推進連絡協議会，二次にわたり文献資料サンプル調査リストを作成して文部省へ提出，45年度中には第三次分も作成
- 9 17 学術審議会，国文学研究資料センター(仮称)を緊急に設置するよう文部大臣に報告
- 12 設立推進連絡協議会，国文学者多数の協力を得て資料センター設立の早期実現を関係方面に陳情(46年1月まで数次にわたる)
- 46 4 文部省に当館の設立に関する準備調査費計上され，準備調査会発足
- 12 前年同様，設立推進連絡協議会，国文学者多数の協力を得て関係方面へ陳情(47年1月まで数次にわたる)

昭和47年度

- 5月1日 国文学研究資料館創設、文部省史料館を史料館として組み込む、また情報閲覧室新設、市古貞次館長、古川清彦研究情報部長、鈴木寿史料館長、吉野幸夫管理部長、各就任
- 25～30 史料館書庫内燻蒸により閲覧停止、以後毎年実施
- 6 1 大久保正文献資料部長就任
16 第1回運営協議会
- 7 7 第1回国文学文献目録委員会
17 第1回国文学情報検索委員会
- 8 2 第1回評議員会議(国立教育会館)、久松潜一氏を議長に選出
- 9 8 国文学文献資料調査員会議(国立教育会館)
21 国語・国文学研究資料センター設立推進連絡協議会、国語国文学会連絡協議会へ改組
29 建築委員会発足(54年4月22日まで)
- 10 1 東館着工
2～7 第18回近世史料取扱講習会(福岡県文化会館)
12 国文学研究資料館新営工事地鎮祭
16～21 第18回近世史料取扱講習会(東京都職員研修所、第1回昭和27年)
29 国文学文献資料調査員中部地区会議(皇学館大学)
31 同 九州地区会議(九州大学文学部)
- 11 2 同 近畿地区会議(京都大学楽友会館)
7 国文学文献資料収集計画委員会(国立教育会館)
9 第1回公開講演会(朝日講堂)、テーマ「古典と現代」
20 国文学文献資料調査員中国四国地区会議(高知大学文理学部)
25 同北海道東北地区会議(東北大学良陵会館)
30 『史料館報』(昭和40年3月31日創刊)第17号発行、以後年2回発行
- 12 2 国文学文献資料調査員関東甲信越地区会議(当館)
25 『国文学研究資料館報』創刊、年1回刊とする
- 12月 この月刊行の『武蔵野文学』20号に座談会「国文学研究資料館設立によせて」掲載(昭和48年)
- 1月16日 第37回史料館定例研究発表会(第1回昭和38年4月19日)
23 国文学文献資料調査員打合せ会(如水会館)
- 2 5 国文学文献資料調査員会議(国立教育会館、6日当館見学)
8 国文学文献資料収集員会議(同上、9日当館見学)
14 共同利用問題検討委員会発足(この年7月4日まで)
- 3 23 整理閲覧準備委員会発足(49年1月9日まで)
29 東館竣工
30 『史料館所蔵史料目録』(第1集昭和27年3月25日刊)第21集・第22集発行(以後年2冊刊)
31 『史料館研究紀要』(昭和43年3月31日創刊)第6号発行(年1回刊)

昭和48年度

- 5月 当館の導入すべき電算機システムについて各社のプロポーザルを求める
- 6 14 英国バーミンガム大学図書館長K. W. ハンフリー氏来館
- 19 国文学文献資料調査員会議(国立教育会館),『国文学文献資料調査要領』配布(以後毎回)
- 20 国文学文献資料収集員会議及び文献資料調査収集研修会,特別講演 伊地知鐵男・中村幸彦両氏
(国立教育会館)
- 21 第2回公開講演会(朝日講堂),テーマ「芭蕉と蕨村」
- 7 18 第1回国文学文献資料調査員・収集員 愛知・三重特別会議(名古屋大学,第2回12月10日三重大学)
- 20 各部館東館に移転
- 30 共通事項検討委員会発足

- 9 6 国文学研究資料館全館教官会議運営規約制定
- 11 国文学文献資料調査員北海道東北地区会議(酒田市中央公民館)
- 17~22 第19回近世史料取扱講習会(国立教育会館)
- 18 古川清彦教授,在外研究員としてアメリカ・イギリス・オランダ・西ドイツ等へ出張(11月17日まで)
- 10 2 第1回全館教官会議(以後隔月開催)
- 15~20 第19回近世史料取扱講習会(京都府立総合資料館)
- 18 国文学文献資料調査員中部・近畿地区会議(京都大学楽友会館)
- 〃 国文学文献資料調査員中国四国・九州地区会議(九州大学)
- 31 国文学文献資料調査員関東甲信越地区会議(当館)
- 10月 『国文学研究資料館逐次刊行物目録』(謄写刷)作成

(昭和49年)

- 1月9日 整理閲覧準備委員会最終会(整理閲覧委員会へ発展)
- 25 国文学文献資料調査員及び収集員打合せ会(学士会館・如水会館)
- 〃 整理閲覧委員会発足(52年4月1日まで),マイクロ写真委員会発足(52年4月1日まで)
- 2 6 連絡委員会発足
- 3 25 『国文学研究文献目録 昭和46年』発行
- 3月 『国文学文献資料所在調査仮目録 昭和47年度』作成
- 〃 「平治物語」データによる総索引及びKWIC索引作成テスト実施

昭和49年度

4月11日 研究情報部編集室・参考室・情報処理室新設

5 21～22 国文学文献資料調査員会議(公立学校共済組合本部), 特別講演 山岸徳平氏

7 4 国文学文献資料調査員北海道東北地区会議(山形大学工学部)

6 同 中国四国地区会議(香川大学本部)

10 同 九州地区会議(九州大学本部)

16 同 中京地区会議(名古屋共済会館)

17 停年制検討委員会発足(12月17日まで)

9 1 研究情報部マイクロ室設置

3 国文部門教官懇談会発足(51年3月まで, 原則として月1回)

9～14 第20回近世史料取扱講習会(宮城県図書館)

13 国文学文献資料調査員中部・近畿地区会議(京都大学楽友会館)

25 松田修教授, 在外研究員としてアメリカ・メキシコ・イギリス・フランス等へ出張(11月24日まで)

30 『国文学研究資料館報』第3号発行, 以後年2回刊とする

〃 第20回近世史料取扱講習会(10月5日まで, 国立教育会館)

10 11 マイクロ室運営委員会発足(53年4月1日まで)

11～14 第1回近世史料所在調査(三州代官滝川家文書), 以後年2回実施

11 1 研究情報部マイクロ室業務開始

7 第3回公開講演会(朝日講堂), テーマ「源氏物語」

12 ケンブリッジ大学 D. E. ミルズ氏来館, 13日同氏講演会(霞山会館, 東方学会と共催)

12 3 第1回レクリエーション大会(仮設バレーコート), 以後場所を変えつつ毎年秋の行事となる

18 国文学文献資料調査員関東地区会議(当館)

(昭和50年)

1月 第1回漢字字種調査開始(51年7月一応終了, 以後52年3月まで4回にわたり実施)

2月 研究情報部マイクロ室においてポジフィルム作成開始

3 1 西館地下設備機械室着工

〃 備中松山板倉家文書寄託

25 『国文学研究資料館紀要』第1号発行(以後年1回刊)

3月 『史料館案内』1975年版発行

〃 『国文学文献資料所在調査目録 昭和48年度版』作成, 以後53年度分(54年5月)まで毎年作成

昭和 50 年 度

- 4 月 9 日 連絡委員会最終会(連絡協議会へ発展改組)
- 28 ポーフム大学教授 B. レーヴィン氏来館
- 5 15 第 1 回連絡協議会
- 28 国文学文献資料調査員会議(公立学校共済組合本部), 特別講演 松尾聰氏
- 6 4 第 1 回国文連絡会議
- 10 国文学文献資料調査員関東地区会議(国立教育会館)
- 27 同 近畿地区会議(京都大学楽友会館)
- 7 1 久松家文書寄託
- 14 国文学文献資料調査員九州地区会議(祐徳稲荷神社社務所)
- 15 同 中国四国地区会議(松江市むらくも会館)
- 21 同 中部地区会議(金沢市会館加賀)
- 8 6 同 北海道東北地区会議(北海道大学文学部)
- 9 30 第21回近世史料取扱講習会(10月4日まで, 石川県立郷土資料館)
- 9 月 国文学に関係ある図書館約700について休館日・開館時間・特殊文庫の利用条件などを照会
- 10 16 ロンドン大学東洋アフリカ学部図書館 日本・朝鮮部長 B. ヒックマン氏来館
- 20~24 第21回近世史料取扱講習会(国立教育会館)
- 25 福田秀一助教授, 在外研究員としてアメリカ・イギリス・フランス・西ドイツ・ソ連等へ出張
(12月24日まで)
- 31 東京大学附属図書館より管理換で重複版本類受入
- 11 8 第 4 回公開講演会(主婦の友ビル)
- 10 西館地下設備機械室竣工

(昭和51年)

- 1 月 23 日 第 1 回西館建築打合せ会議(第 2 回 2 月 3 日)
- 2 月 文部省科学研究費特別研究(1)「広域大量情報の高次処理」に参加, テキサス・インスツルメン
ト社Silent 733端末を導入, 電話回線により東京大学大型計算機センターと結びプログラム研究
開発開始
- 3 2 評議員会議議長久松潜一氏死去
- 3 月 国文学研究資料撮影要項決定(51年度から実施)
- この年度 文部省科学研究費試験研究(2)「国文学情報検索システム開発の為に基礎的研究」により1,000件
の論文の抄録作成及びキーワード抽出などの試験研究実施

昭和 51 年 度

- 4 月 三号書庫の史料を移動
- 5 19 国文学文献資料調査員会議(学士会館), 特別講演 尾形伋氏
- 27 第 1 回史料館研究会
- 6 15 国文学文献資料調査員関東地区会議(当館)
- 21 同 中部地区会議(名古屋市王山会館)
- 23 同 近畿地区会議(京都市御車会館)
- 30 鎌田永吉史料館第一史料室長死去
- 〃 【文献資料目録作製テスト報告】作成
- 7 1 吉野幸夫管理部長転出(大阪外国語大学へ), 渡辺章管理部長就任
- 〃 西館及びポンプ上屋着工, 北館改修工事着手
- 12 国文学文献資料調査員中国四国地区会議(高知市鷹匠苑)
- 13 同 九州地区会議(島原市島原荘)
- 16 評議員会議(如水会館), 山岸徳平氏を議長に選出
- 7 月 文部省科学研究費試験研究(2)「文献資料マイクロフィルムの撮影・保存等の標準化に関する研究」開始(53年 3 月報告書作成)
- 〃 マイクロ資料目録作成システム・逐次刊行物目録作成システム開発開始(各報告書刊行 52年 4 月 1 日付)
- 8 27 ローマ大学教授 G. ストラミジョーリ氏来館(57年10月 2 日にも)
- 9 27 第22回近世史料取扱講習会(10月 1 日まで, 岡山県総合文化センター)
- 10 25～29 第22回近世史料取扱講習会(国立教育会館)
- 26 大英図書館東洋写本版本部次長 K. B. ガードナー氏, 英国大使館文化部 T. モーン氏来館
- 30 第 5 回公開講演会(お茶の水女子大学)
- 10月 研究者カード作成開始
- 12 3 国立教育研究所附属図書館より管理換で国民精神文化研究所伝来の写本(国学者自筆稿本等)受入
- 24 コロンビア大学教授 D. キーン氏来館
- 30 田嶋一夫助教授, 在外研究員としてアメリカ・イギリス等へ出張(52年 2 月28日まで)

(昭和52年)

- 1 月19日 改築による史料館移転のため閲覧業務停止(6 月26日まで)
- 2 1 国文学研究資料館資料利用規程制定
- 10 第 1 回国際日本文学研究集会組織委員会
- 28 北館改修工事完了
- 3 1 小田章二氏所蔵本寄託
- 18 史料館旧書庫の史料を東館及び北館へ搬出完了
- 28 西館及びポンプ上屋竣工
- 3 月 次年度に導入される計算機システム機種選定

この年度, 文部省科学研究費一般研究(3)「近世史料の体系化に関する基礎的研究」(代表者鈴木寿, 分担者 8 名)実施

昭和 52 年 度

- 4 月 1 日 鈴木寿史料館長退官、榎本宗次教授史料館長に就任
- 〃 図書資料委員会発足、整理閲覧委員会及びマイクロ写真委員会廃止
- 〃 『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録 1976年』『国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録 1977年 3月末現在』発行
- 〃 久松国男氏所蔵本(故久松潜一氏所蔵)第一次分寄託(第二次は57年 6月)
- 5 12 国文学文献資料調査員会議(以後当館)、『国文学文献資料既調査文庫目録』配布(以後55年まで毎回)、特別講演 小松茂美氏
- 6 1 文献資料部第四文献資料室開設
- 〃 コロンビア大学教授 D. キーン氏外国人研究員に就任(11月30日まで、以後毎年度 1名)
- 〃 稲葉家文書寄託(10月 1日 岡谷繁実文書、11月 1日 相馬家文書も)
- 24 開館式典、文部大臣海部俊樹氏ら多数列席 27 史料館閲覧業務再開
- 7 11 国文学文献資料調査員九州地区会議(佐賀市有明荘)
- 14 同 中国四国地区会議(広島市白島会館)
- 25 閲覧利用業務開始、開館記念特別展示「国学者自筆稿本と奈良絵本を中心として」(30日まで)
- 8 8 共同研究発足(第 1 回会合・討議)
- 17 金子武雄氏所蔵本(故金子元臣氏所蔵)寄託
- 20 大学図書館職員長期研修の一環として見学に来館(以後毎年)
- 9 26~30 第23回近世史料取扱講習会(京都府立総合資料館)
- 27 国文学文献資料調査員東北地区調査打合せ(八戸市立図書館)
- 10 1 第 6 回公開講演会(以後当館)
- 17~21 第23回近世史料取扱講習会(当館)
- 20 西ベルリン国立図書館東アジア部長 E. クラフト氏来館
- 11 10~11 第 1 回国際日本文学研究集会(同組織委員会主催)
- 11 米国議会図書館日本部長 黒田良信氏来館
- 21 初雁文庫(故西下経一氏所蔵本)寄託
- 12 6 常設展示開始(53年 3月 1日まで、以後随時開催)
- 24 「国文学研究資料館蔵和漢書簡略目録」(『館報』別冊 1号)発行
- 28 電算機システム搬入・引渡し(53年 1月 4日稼働開始)
- (昭和53年) 2月 『国際日本文学研究集會會議録(第 1 回)』発行(以後各回のを毎年刊)
- 3 1 この日発行の『文学・語学』第80・81合併号に「国文学研究資料館紹介」小特集あり
- 4 第 7 回公開講演会(当館)、テーマ「国文学と久松潜一博士」
- 〃~10 第 3 回特別展示、『久松博士蔵歌論書及び本館蔵国学関係書を中心として』(国文学研究資料館特別展示目録二)作成(以後シリーズとして、特別展示の都度作成)
- 27 電算機システム披露式、特別講演 西村恕彦氏
- 〃 『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録 簡略版』発行
- この年度 文部省科学研究費特定研究「言語」に参加、「計算機」による日本語システムの実用的処理開始(昭和55年度まで 3年間)、55年 3月「データ処理システムの為の漢字ソース」試作版作成
- 〃 文部省科学研究費一般研究(B)近世史料の体系化に関する基礎的研究(代表者榎本宗次、分担者 8名)実施(成果は53年 3月『史料館研究紀要』第10号に報告)

昭和53年度

- 4月 マイクロ室運営委員会廃止(図書資料委員会に吸収)
- 5 23 国文学文献資料調査員会議
- 6 24 第8回公開講演会、テーマ「古今集前後」
 第4回特別展示「古今集——初雁文庫蔵本を中心として」(7月7日まで)
- 7 14 評議員会議、石井良助氏を議長に選出
 18 第1回共同研究委員会
 19 国文学文献資料調査員近畿地区会議(京都市日伊会館)
 24 同 中国四国地区会議(松山市えひめ会館)
- 8 3 大野瑞男助教授、在外研究員としてアメリカ・イギリス・フランス・オランダへ出張(10月2日まで)
 15 市古貞次館長、奈良絵本国際会議に出席のためアイルランド・イギリス・アメリカへ出張(9月4日まで)
 21～22 解釈学会第10回全国大会、当館で開催(その講演・シンポジウム等の記録は『解釈』この年11月号に掲載)
 24～26 第1回夏期公開講演会
- 8月ごろ ハーヴァード大学教授 H.S. ヒベット氏来館(55年2月にも)、またエール大学図書館東アジア部長金子英生氏来館(54年6月4日等にも)
- 10 2 図書資料管理システム運用開始
 23～27 第24回近世史料取扱講習会(京都府立総合資料館)
- 11 6 国文学文献資料調査員九州地区会議(長崎県立図書館)
 6～10 第24回近世史料取扱講習会(当館)
 16～17 第2回国際日本文学研究集会(今回から当館主催で毎年この時期に開催)
 18 第9回公開講演会

(昭和54年)

- 2月1日 国文学研究資料館計算機システム管理運用要項・同利用要項制定
 20 ドイツ研究協会学術図書館部長 D.エルテル氏来館
 26 初雁文庫買上
- 3 25 『国文学年鑑 昭和52年』刊行(『国文学研究文献目録』を改題充実)
 31 『国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録 1979年』『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録 1978年』発行
- 3月 漢字データ処理ソフトウェア「KPRSUB」及び「KSLコーティリティ」作成

昭和 54 年 度

- 4 月 1 日 整理閲覧部新設, 本田康雄教授整理閲覧部長に就任
- 4 月 昭和37年以前研究文献 調査・収集・刊行事業(5箇年計画)開始
- 5 11~12 日本歌謡学会大会, 当館で開催
22 国文学文献資料調査員会議
- 6 16 渡辺章管理部長転出(一橋大学へ), 小泉武管理部長就任
22 日本近世文学会, 当館で開催
28 昭和37年以前の学会誌・紀要の発行状況等の調査開始
30 第10回公開講演会
- 7 7 国文学文献資料調査員近畿地区会議(京都農林年金会館)
20 『謡曲曲名索引(参考書誌叢刊一)』発行
- 8 20 奈良絵本に関する国際会議, 当館で開催
〃~25 特別展示「日本の絵本ならびに版本の挿絵」
- 9 6~8 第2回夏期公開講演会「日本の説話——ハナシの世界」(内容は「国文学研究資料館講演集一」
として55年3月刊)
14 石塚英弘助教授, 在外研究員としてアメリカ・イギリス・フランスへ出張(11月13日まで)
18~30 福田秀一教授, ヨーロッパ日本研究協会第2回大会に参加ならびに在外国文学資料調査のため
イタリア・西ドイツへ出張
28 古川清彦教授, 韓国日本学会に参加のため出張(10月3日まで)
- 9 月 文部省科学研究費試験研究(2)「国文学語彙検索システム及び索引誌の作成に関する研究」開始
(報告書は57年3月刊)
- 10 15~19 第25回近世史料取扱講習会(岐阜県歴史資料館)
31 国文学文献資料調査員北海道東北地区会議(青森市八甲荘)
- 11 5~9 第25回近世史料取扱講習会(当館)
15~16 第3回国際日本文学研究集会
17 第11回公開講演会, テーマ「歌舞伎」
26 特別展示「和歌と歌論——初雁文庫・久松博士本を中心に——」(12月1日まで)
- 12 11 国文学文献資料調査員中部地区会議(名古屋市愛知会館)
(昭和55年)
- 1 月 31 日 『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録 1979年』発行
- 3 28 『史料館叢書1・2 寛文朱印留上・下』東京大学出版会より刊行
30 『国文学研究資料館講演集一』発行(以後継続的に刊行)
〃 『史料館所蔵目録一覧〔近世史料・郷土資料の部〕』発行
31 『調査研究報告』(文献資料部)第1号発行(以後年1回刊)
〃 『国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録 1980年』発行

昭和 55 年 度

- 4 月 1 日 古典籍総合目録作成事業開始
- 5 19 古典籍総合目録専門委員会発足
- 26 中世文学会, 見学に来館
- 27 国文学文献資料調査員会議
- 6 10 台湾大学教授林文月氏来館
- 14 第12回公開講演会
- 7 14 福田秀一教授, ケンブリッジ大学図書館へ和古書整理・調査のため出張(8月20日まで)
- 8 1 済州国立大学教授 吳娟煥氏来館
- 26 ヴェネツィア大学教授 A.ボスカロ氏来館(57年7月20日にも)
- 9 1 大久保正文献資料部長死去
- 4~6 第3回夏期公開講演会, テーマ「和歌の流れ」
- 7~10 第7回特別展示「歌書展」
- 13 中国図書館学会常務理事 楊威理氏来館
- 10 13~17 第26回近世史料取扱講習会(京都府立総合資料館)
- 14 第1回古典籍総合目録委員会
- 14~25 田嶋一夫助教授, 中国科学院計算センターへ指導のため出張
- 20 和歌文学会, 見学に来館
- 20~21 近世史料展示, テーマ「近世農・漁村生活史料」
- 24 国文学文献資料調査員九州地区会議(熊本厚生年金会館)
- 27~31 第26回近世史料取扱講習会(当館)
- 10月 オンライン情報検索システム「日本語 I R 試験システム」完成
- 11 10~15 第8回特別展示「館蔵貴重書展」
- 13~14 第4回国際日本文学研究集会
- 15 第13回公開講演会
- 19 国文学文献資料調査員中部地区会議(名古屋市王山会館)
- 12 19 国文学文献資料調査員北海道東北地区会議(盛岡市こずかた会館)
- (昭和56年)
- 1 月 31 日 『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録 1980年』発行
- 2 1 福田秀一教授文献資料部長に就任
- 6 受入資料数が50,000冊に達する
- 2 月 この時点までの当館の使用文字種(総文字数4,658,640)の調査実施
- 3 25 『国文学年鑑 昭和54年』発行, 今回から新聞掲載の署名論文一覧を加える
- 31 『国文学研究資料館共同研究報告 1 初雁文庫主要書目解題 付・初雁文庫目録』明治書院より刊行
- 〃 『国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録 1981年』発行

昭和 56 年 度

- 4月1日 古川清彦研究情報部長退官, 小山弘志研究情報部長就任
- 4月 計算機システム主記憶装置, ディスク及び端末装置増強, オペレーティング・システムもVOS 2からVOS 3へレベルアップ
- 5 22 ソ連科学アカデミー東洋学研究所レニングラード支部日本科長 V. N. ゴレグリアード氏来館, 懇談会開催
- 28 国文学文献資料調査員会議
- 6 12 小山弘志教授, 国際作家会議に出席ならびに日本文学資料等調査のためフィンランド・スウェーデン・フランスへ出張(7月1日まで)
- 13 第14回公開講演会
- 7 31 国文学文献資料調査員中国四国地区会議(今治市河野信一記念文化館)
- 9 3~5 第4回夏期公開講演会, テーマ「近世の小説」
- 3~9 第9回特別展示「館蔵貴重書展」
- 4 中国社会科学院語言研究所 熊正輝氏・劉堅氏来館
- 22 オーストラリア国立大学教授 T. ハーパー氏来館, 懇談会開催
- 10 12~16 第27回近世史料取扱講習会(当館)
- 13 中国日本文学研究会理事葉渭渠氏及び中国社会科学院外国文学研究所唐月梅氏(葉氏夫人)来館, 懇談会開催
- 24 国文学文献資料調査員北海道東北地区会議(仙台市翠風荘)
- 27 閲覧利用登録者数7,000人に達する
- 28 エール大学教授 E. マックレラン氏来館
- 31 第15回公開講演会——創立10年記念(京都会館)
- 〃 国文学文献資料調査員近畿地区会議(京都会館)
- 10月 古典籍総合目録作成計画の資料として全国図書館・美術館・博物館等の和古書所蔵状況を調査
- 11 12~18 第10回特別展示「国学者自筆本と新収集資料を中心として」
- 20 シンガポール国立大学中央図書館チュウ・ヤム・ワイ(朱炎輝)氏来館
- (昭和57年) 1月7日 武者小路不二子氏より和歌三部抄伝授之切紙等受贈
- 1 27 ミシガン大学教授 R. H. ブラワー氏来館, 懇談会開催
- 31 『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録 1981年』発行
- 2 5 ボン大学教授日本研究所長 J. クライナー氏来館
- 23 共同研究委員会で次年度共同研究員につき一部公募を決定
- 3 1 伊井春樹助教授, オーストラリア国立大学の招聘により出張(4月30日まで)
- 11 榎本宗次史料館長死去
- 25 『国文学年鑑 昭和55年』発行, 今回から収載雑誌類について当館所蔵の有無を表示
- 29 宮沢彰助教授, 在外研究員としてアメリカ・イギリス・フランスへ出張(9月28日まで)
- 30 調査収集成果資料利用懇談会
- 〃 『国文学研究資料館蔵和古書目録 1972~1981』『国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録 1982年』発行
- 3月 目録編集用ソフトウェア「KOMSYS 1」作成, 論文検索システム・和古書目録作成システム完成

昭和 57 年 度

- 4 月 1 日 市古貞次館長退官，小山弘志教授館長に就任，棚町知弥教授研究情報部長に就任
27 十周年記念行事委員会(仮称)発足
- 5 21 共同利用研究所長懇談会，当館で開催
25～26 国文学文献資料調査員会議(26日は地区代表のみ)
- 6 1 久松国男氏所蔵本第二次分・武者小路実光氏所蔵本 寄託
- 7 23 プラハ外国語学校教授 V.ヴィンケルヘーフェロー氏来館
- 8 8 伊井春樹助教授，在外研究員としてアメリカ・イギリス・フランスへ出張(10月7日まで)
23 解釈学会全国大会，当館で開催

あ と が き

国文学研究資料館が今年創立十周年を迎えるに当って、何らかの記念行事をすべきかどうか、するとすればどのようなことを企画すべきか、といったことが館内で話題になり始めたのは、昨年の秋ごろであった。けれども、すでにこの春で退任を予定しておられた市古前館長は、結果的にその後を拘束するようなことは一切慎まれたので、昨年度中は館内のいくつかの会議でこれについて若干の意見交換を行なったものの、具体的な決定は今年度に取り越された。

かくて、各部館選出の委員で構成する十周年記念行事委員会(仮称)が実際に発足したのは、今年の4月末であった。その席で10月下旬に行なう式典のことなどと共に、『十年の歩み』(当初は仮題)と題する冊子の編集についても討議され、結局そのようなものを作成しようということになって、下記の4名が編集委員に指名された。

10年という月日は、考えようによってはきわめて短く、取り立てて記念するほどのことはないとも言える。しかし一方で、当館の創設からは10年を数えるに過ぎないけれども、その前に設立推進運動の時期があり、創設までの事実経過や関係者の苦労などは、今を逃がすと永久に記録できない惧れがある。又一方、当館がともかくここまで充実発展してきたのには、多くの関係者の協力も忘れることができない。そうした考えから、主として創設前後からその後10年をふりかえり、各方面の御好意に対する感謝の念を新たにすると共に、館の足取りを記録し、併せて、今後へ向けての反省の資ともしたいというのが、その趣旨であった。

こうした基本線に立って構想を固め、インタビューや座談会を企画する傍ら、創設に関与された方々やこの10年間に館が何かとお世話になった方々、その他学界各方面や現旧職員などから何人かを選んで、創設前後ないしは当館にまつわる回想とか当館の今後のあり方についての提言とかを乞うたところ、急なお願いであったにも拘らず多くの方が御協力下さり、話題の拡がりも理想的に近い内容に編集することができた。御多忙中御寄稿下さった各位と座談会に御出席下さった方々に、改めてあつく御礼申上げる。編集委員会としては、なお御寄稿いただきたい方々も少なくなかったが、時日や頁数の制約もあって、残念ながら今回頂戴した方々にとどめた。

それらは「回想・提言」と名づけ、Ⅰ～Ⅲの三箇所に分けて収めたが、これはもっぱら変化を持たせようとの趣旨で、Ⅰ・Ⅱは主として年代や当館の官制を追って、Ⅲは目次に見るように話題によって、排列した。そのほかに座談会の理解を助けるべく「囲み」として使わせていただいたものもあるが、編集上の工夫として御海容いただきたい。

資料と年表は、本文の理解に資すると共にその補足をも兼ねることを意図したものであるが、時間と紙数とわれわれの力量不足と、さらに事項によっては記録の不備もあって、均衡を失した点も少なくないであろう。例えば年表では、来館者のうち外国の日本文学研究者や図書館関係の主だった人についてはなるべく挙げようと試みたが、記録がなかったり年度によっては紙幅が許さなかったりで、洩らした方も少なくない。その他各方面に失礼も多いかと思うし、数詞や送り仮名などの

用字とか用語などに不統一で見苦しい点があることも惧れる。一言弁解を言えば、この種の作業は企画から刊行まで、他機関の例を見ると9箇月から1年位はかけているようであるが、われわれに与えられた時間は、前述のように半年足らずしかなかった。けれどもその間、われわれとしては微力を尽くしたつもりである。なお最後に、「事業活動の歩み」を分担執筆し、また「資料」や「年表」のデータを揃え、かつそれぞれの校正をも助け合った館内各部署の諸氏や、種々無理な注文をきいてくれた勝美印刷の関係者にも、編集委員会として謝意を表しておきたい。

昭和57年9月

福 田 秀 一 (文献資料部)
山 中 光 一 (研究情報部)
岡 雅 彦 (整理閲覧部)
大 野 瑞 男 (史料館)

十 年 の 歩 み

昭和57年10月29日 発行

発 行 者 国 文 学 研 究 資 料 館

東京都品川区豊町1-16-10

印 刷 者 勝 美 印 刷 株 式 有 限 公 司

東京都文京区小石川1-3-7